建築計画研究室

Architectural Planning Lab.

朽木 順綱

KUTSUKI, Yoshitsuna / Associate Professor

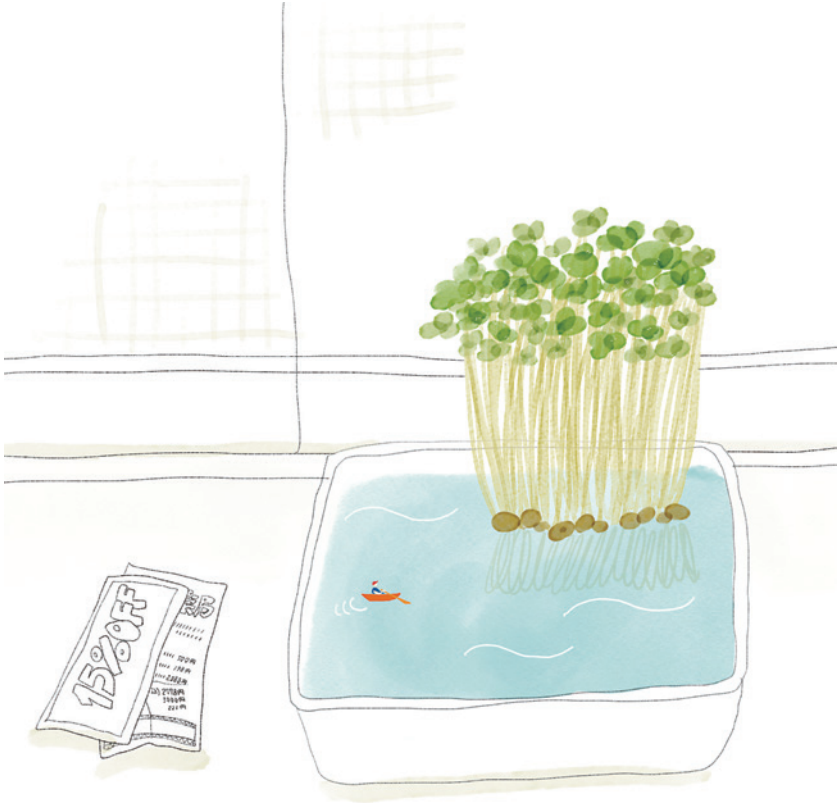
日　常　もうひとつの小さな暮らし

Ordinary Days: Another Life

栽培中の豆苗を見ていると、だんだん亜熱帯地域の
源流に生い茂るマングローブ林に見えてきた。
すぐ側には、カヌーに乗った小人が
ひと時を満喫している。

私のいつもの朝食、いつものお風呂、いつもの癖。
ほっと、ひと息つきまして。
少し見方を変えてみる。
こたつ、泡漁、けんけんぱ。
何気ない日常は、ワクワクであふれている。

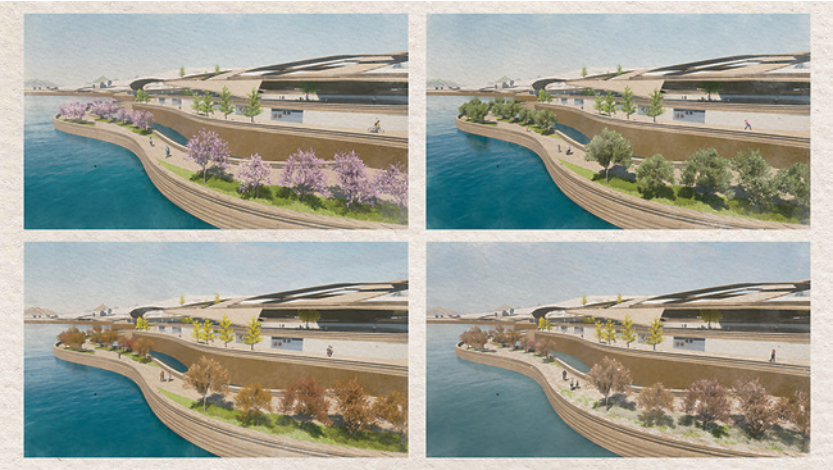
人が暮らす家の中で見立てる、
小さな小さな彼らのくらし。
あなたもきっと知っているはず。
50のシーンを映し出します。



荒木 晴香
ARAKI, Haruka

風土で感じる　──地層の隙間で育む未来──

Feel in Climate: Future Nurtured in Gaps in Strata



日々忙しく働く人々は、食に対しての関心が薄まり、生活習慣に乱れが生じているのではないか。本来大切にしなくてはならない事を忘れているように感じる。

私自身が生まれ育った地元、河内長野市にある寺ヶ池沿い。河内長野市の食材を育む豊かな土壌は、数千年間の地球の蓄積。その蓄積として現れる「チソウ」の表現する自由な姿の隙間には、重要な用途が挟まれている。

自分達で実際に野菜や果物を収穫し、採れたての食材を使った料理を堪能する。ここに集った人達とのコミュニケーションでは、新しい繋がりが生まれる。思い思いの場所で好きなように自分だけの時間を楽しむ。

ここで過ごして見つけた心温まる出会いや発見から、また新しい日常を送ろうと思う。そんな、生まれ変わりを届けるオーベルジュを提案する。

池上 真未子
IKEGAMI, Mamiko

Living Park ――子どものあそびを見守る集合住宅――

Living Park: Apartment House to Make it Easier to Watch over Children's Play

外で遊ぶ子どもたちの姿をあまりみなくなった。様々な環境の変化によって、かつては「家の前」だったあそび場の中心が「家の中」へと変わりつつある。外で遊ぶという経験は子どもの時にしかできない貴重なものだ。この貴重な経験を絶やさないため、外で遊びたくなるようなわくわくする空間を計画する。

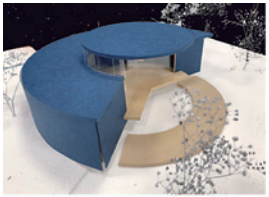
敷地は大阪府交野市妙見坂。奈良県との県境で生駒山によるゆるやかな傾斜があり、自然も多く残る場所だ。周辺は学校や幼稚園のほか、住宅が密集している。この場所だからこそ子どもの生活により近い「住まい」での遊び空間が必要だと考えた。家の周りには道や隣家との隙間、塀や柵など遊びの用途を持たなくても魅力的なものが多くある。

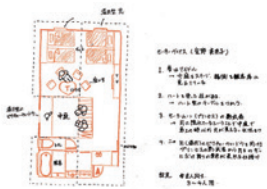
このような敷地を活かし、外遊びを誘発するような地域空間を一体的に計画する。

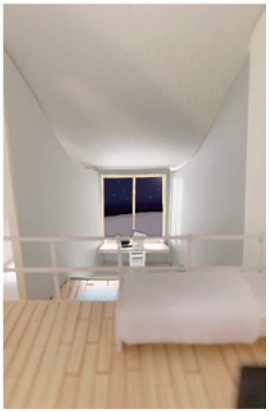
大西 芹佳
ONISHI, Serika

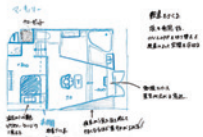
Colors of Planets　宙を愉しむ宿泊施設

Colors of Planets: Hotel for Enjoying Sky









ここは金剛山に抱かれた、千早赤阪村

街の光から離れた場所で無数の星が瞬く

雑音のない暗闇に
セーラームーンの世界観が漂う宙を愉しむ宿泊施設

星空を楽しむ客室でセーラー戦士を感じながら

月明かりに照らされ、惑星と一つになる

梶田 朗穂
KAJITA, Akiho

実家リフォーム 50年計画 2021～2069

Plans for Remodelings of My Parent's House from 2021 to 2069

わが家の家族構成は両親と姉と自身の４人である。しかし、現在は姉がひとり暮らしのため、両親と自身の3人で生活している。今後、自身の就職や両親の定年退職、自身の定年退職など人生の転機が訪れる。その時の生活の変化を約50年通して考える。

わが家は延べ敷地面積40.83㎡の狭小住宅である。今までに玄関まわり、キッチンなど水まわりのリフォームを2回行っているが、玄関が２階にあり、外階段が急で危険であること、自身の部屋と父の部屋が壁で区切られておらずプライベート空間が少ないことなどの解決出来ていない問題がある。また、年月が経つにつれて住人の環境が変わり、住宅の在り方も変わっていくことが求められる。今回はその課題をできるだけ改善するリフォームを段階的に提案する。

金田 凌
KANEDA, Ryo

刻の堆積　変容する寿祝きの風景

Accumulation of Time: Transforming Landscape of Marriage Rituals

人が年をとるごとに、世界も刻を積み重ねている。

人が生きてきた内面にある時間の流れと世界が経てきた外にある時間の流れが重なり合うための建築である。そこで人は周囲の自然が知らず知らずのうちに積み重ねてきた大きな時間の流れで生きていることをもう一度認識する。

この結婚式場では、未来に祈りを捧げる2人の時間と、四季による自然の変化、水位と建築空間が織りなす時の移ろいが重なり合う。ダム湖に少しずつ溜まってゆく砂に時の重なりを感じ一体となって繋がっていた建物が、断片化され一つ一つの世界を創る。自然と建築が創造するその時々の風景に新しい祝祭の場が生まれるであろう。

審査会賞
（建築部門2位）
石井良平賞

熊渕 公乃
KUMABUCHI, Kimino

ユウミズカフェ　まちのスキマのポップアップスタンド

Yumi's Cafe: Pop-up Stand in Niche in Town

まちは、私たちのそれぞれの振る舞いで構成されている。

人々の自由な振る舞いが溢れるまちへのアプローチとして“ユウミズカフェ”を提案する。

“ユウミズカフェ”は心奪われたまちのスキマで、おやつとドリンクを片手にみんなで語らう空間である。

そして自由で楽しく、心地良い。

今回、私のバイブルである笹尾和宏著書の『PUBLIC HACK』を参考に行った、梅田・中ノ島エリアでの18種類の“ユウミズカフェ”を紹介する。

いつかあなたのまちにもユウミズカフェが現れるかもしれない……。

酒井 佑美
SAKAI, Yumi

合理化社会での暗中飛躍　弱者を守り、強くする起業家塾

Secret Maneuver in Rationalized Society: Entrepreneurship School for Protecting and Strengthening The Weak

合理化社会の中だろうとも、本来のあるべき個性が生まれるためのシカケ。

敷地は大阪市浪速区大国町。なんば・天王寺・西成に囲まれたエリアであり、住宅街であった地域。近年、立地の良さから公共機関は民間企業へ施設や土地を売却し、公園や道路に対しては規制の強化を行っている。その結果、戸建て住宅街や個人商店は、高層マンションや大型量販店に移り変わり大勢の人々にとって便利な町となった。

しかし、これらの合理化の弊害として街や地域住民の個性を無視していることは、子供達の成長環境、地域コミュニティー、個人活動を蔑ろにする重大な問題であり、行動の実質的な制限が生まれていると私は考える。

そこで、「失われた個性」の行き場として大国町内に起業家になるための塾と実習店舗を設計し「失われた様々な街の個性」を、「個性を持った塾生」が解決できる場を生み出す。

西谷 匠平
NISHITANI, Shohei

見えない空間

Invisible Space

みなさんは空間を見たことがありますか？　僕はありません。空間はあるのでしょうか？　何を以って空間と捉えているのでしょうか？

空間を扱うときに操作するのは、その空間を取り囲む外殻の建築である。見ているものは、扱っているものは、テクスチャや形態という物質の側面で、原理的には空間を直接扱うことができていないのではないか。

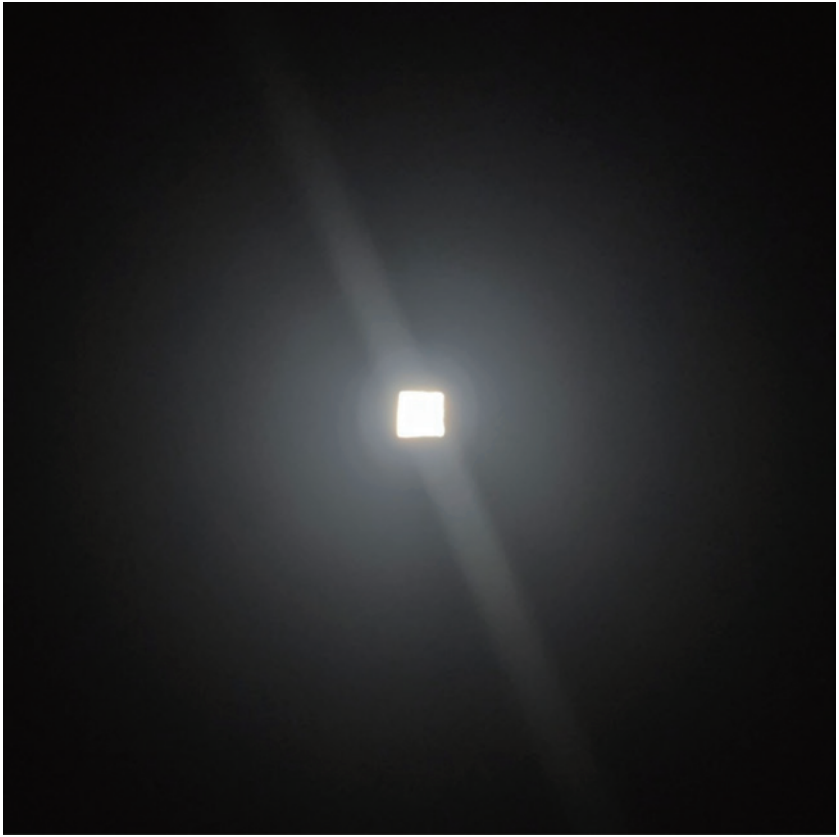
空間が最も最初に於いて何から生まれるのかを知らない限り、空間を扱えないのではないか。

様々なもので溢れ、混ざり合った結果できた空間、ここから様々なものを取り除いて残った結果の空間、空間を成立させているぎりぎり最小限の要素を追求しました。そしてその最たるものが光だと至りました。

コレが僕の空間です。みなさんの空間はどうですか？

半澤 諒

HANZAWA, Ryo



異世帯転生　――趣味と他人と暮らし出す――

Reincarnation in Another Family: Enjoying Hobbies and Living with Others

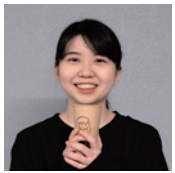
「世帯」というキーワードは、人々の大まかな居場所を意味する。例えば、家族で暮らす家族世帯や、一人で暮らす単独世帯。現在私たちのほとんどは、どちらかを選択し、その中の少し窮屈で、あるいは空虚が当たり前の生活に在る。そこで、「異世帯」を新しい選択肢として提案する。

異世帯とは、共通の趣味や創作、価値観を持った他人同士が、家族と同じような規模感で暮らす新しい世帯のあり方を指す。異世帯住宅は、共通の“好き”以外の交流の期待値は低く、“好き”を介した交流の期待値は高くなるように計画されている。

ある土地に一斉に開発される新築の建売住宅ように、異世帯住宅はその町に群となってランダムに現れる。その町の人々は異世帯の風景に触れた時、新しい文化を知る。異世帯住宅で暮らす人々は異世帯ゆえのマジョリティの力で守られる。

そんな可能性を秘めた異世帯。

多くの人々が意識的に異世帯へ転生し、多様な生活が混在することを望む。



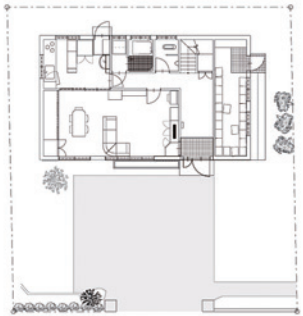
藤井 菜央那
FUJII, Naona

わたしだけの家　頭の中で生き続ける記憶の世界

My Own House: House that Remains in Memory

皆さんは昔住んでいた実家、初めて一人暮らしをした家、建て替える前の家、よく遊んだ友達の家、どれくらい覚えていますか？ どんな家具でしたか？ どんなつくりでしたか？ どこがお気に入りの場所でしたか？

14年前、私が小学二年生の時に私たち家族の家は建て替えられた。もう二度と踏み入れることができない家。その家はそれぞれの頭の中で生き続けている。私の頭の中で成長してきたその家を再現した。父の記憶の中では機能面や寸法が鮮明に残り、母は植物の種類や子供のエピソードや色が残り、姉は形や配置よりたくさんのエピソードが残り、弟は怖かった場所や楽しかった遊びが残り、二歳差にも関わらず配置さえ曖昧。そんなそれぞれの家と実際に建っていたものに近い家を比較しながら記憶の旅に出る。



松谷 美祐
MATSUTANI, Miyuu

低解像度（ガビガビ）の小学校　――仮想と現実の混世界――

Low Resolution Elementary School: Mixed World of Virtual and Reality

世の中には鮮明で完成されたような印象をもたらす高解像度なものが溢れている。
それらから一度距離を置き、粗く未完成で低解像度な空間を提案する。
その空間では利用する各々が自由に使い方を見つけ、時に付け足し、その人にとっての完成を目指す。

全てがブロックでできたゲームの世界「Minecraft」で仮想空間をデザインすると、その低解像度ゆえに創造も破壊も簡単にでき、自身だけではなく様々な国の様々な人に手を加えてもらえる。
誰かにとっての完成はまた違う誰かにとっての未完成であり、プレイヤーが存在する限り創造と破壊を繰り返し付け足されていく。

そのような自由でゆるやかな空間デザインの可能性を、自分の母校である小学校を題材として探求してみることにした。
もういちど、小学生の頃の遊びこごろと大雑把な世界観に導かれて、未完成で、低解像度な空間を楽しんでみたいと思う。

森　茜
MORI, Akane

窓詠む月日　都市と人との物語を紡ぐ72の窓

Stories from Around Windows in City : 72 Kinds of Windows that Create Relationships Between Cities and People

ある場所に複数のハコがある。

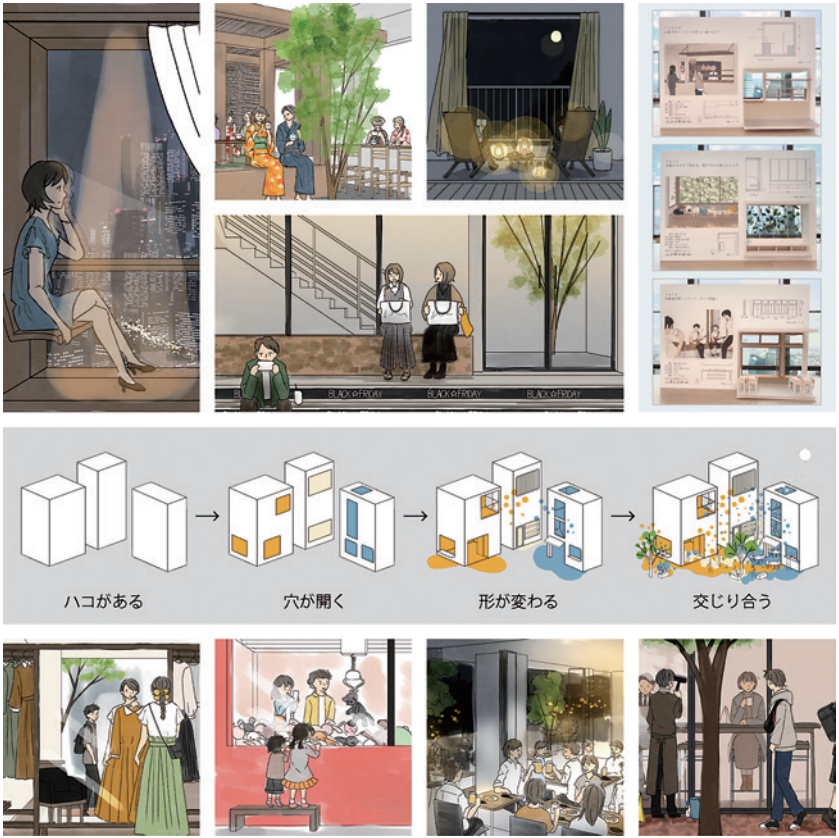
それらのハコに穴――窓をあける。

窓の形が変化するとハコによって区切られた空間の境界が変化する。

変化した境界の形に合わせて内部と外部の空間が持つ情報（光、風、音、匂い、モノ、ヒトなど）が互いに染み出し染み込んでゆく。

そしてたくさんの建築物同士が緩やかに繋がっていき、都市が形成され、そこでたくさんの人の日常が過ぎてゆく。

そのような建築物の内部と外部の境界を変化させ、建築物同士の緩やかな繋がりを生み出す窓辺を、そこで日常を送っている人々の振る舞いに注目して、七十二候の暦に沿って72種類設計した。季節や場所、そこに集う人々によって変化する都市の物語を覗き見ることで、日常私たちが必ず目にする窓が創り出す建築空間について見つめ直すきっかけになれば良い。

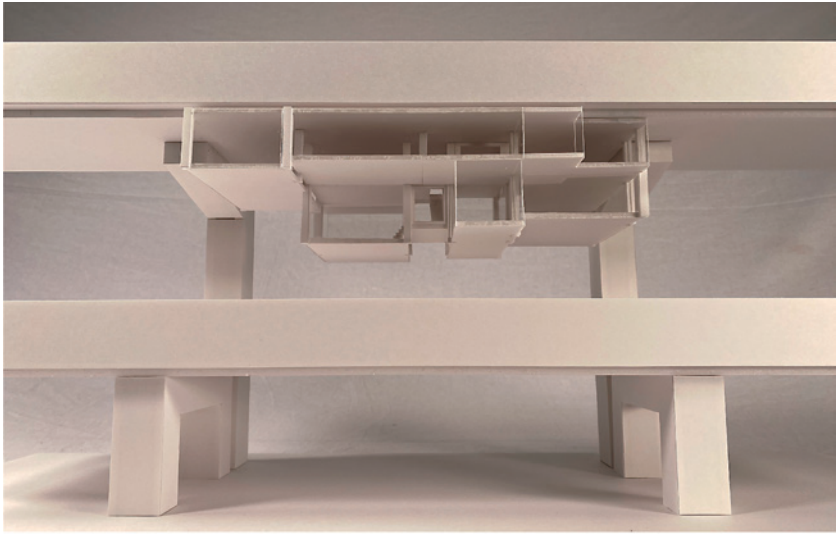


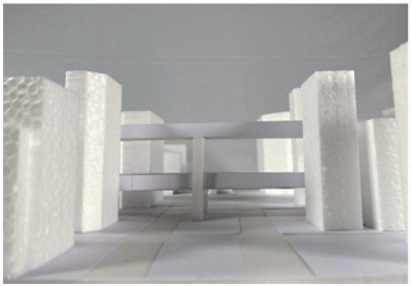
審査会賞
（建築部門1位）
上中普雄賞

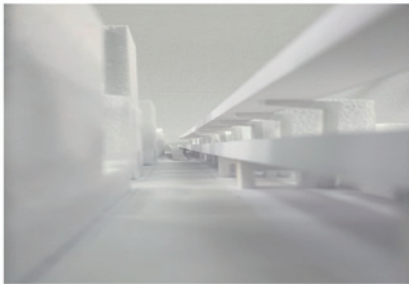
安田 千夏
YASUDA, Chinatsu

都市高速道路空間計画　都市部の高架下の有効活用

Planning for Space under Urban Expressway: Effective Utilization of Areas under Elevated Urban Expressway







慢性的な交通渋滞の発生及び事故多発区間である阪神高速道路1号環状線（湊町JCT―西船場JCT）の交通渋滞の緩和と事故発生数削減を目指す。また、新設道路と既存道路の間に生まれる部分について地域性を持った新たな空間を提案する。

新設道路に関しては、既存の車線を残し、道路上部に新たに道路を増築する構想とした。二層化することによって交通量を分散させて合流時の複雑な車線変更を容易にかつ安全に行うことができる。また、一車線における交通量が減少するため渋滞も緩和される。

空間計画に関しては、上層道路と下層道路の間にできる空間は道路開発の副産物である。高速道路によって生まれる空間は都市に対して必然的に閉鎖している。これらの空間を都市に広がる繋がりのある地域的な空間にすることで、空間的観点から高速道路と都市の調和を計画する。エリア毎にその地域の特性を反映させることで密接な関係にある空間をつくる。

宮本 和季
MIYAMOTO, Kazuki